



JEG ニュースレター 136号

www.jegschweiz.com

2013年6月28日発行

小さな証

この修養会で得た一つのキーワード「出会い」、神様から贈られた「出会い」を通して得られた確信とは、今村葉子姉の本当に小さな証。

合同修養会

ミラノ/スイス合同修養会は、スイスイタリア語圏テシン州、風光明媚なマジョーレ湖畔のアスコナで3日間に渡って開かれました。

一言感想

スイスJEGの歴史始まって以来、初めてのミラノとの合同修養会をミラノの兄姉はどう感じられたのか、一言感想集です。

MIP 祈りのお母さん

MIP 祈りのお母さんとはなんでしょう。スイスJEGの片隅で始まったこの動きは、家庭を変えていきます。本園万子姉のレポートです。



小さな祈り

どうか今日、私の愛する者がイエス様の十字架の愛に圧倒され、癒され、喜びの涙を流すことができますように。

あなたがたの間で偉くなりたいと思う者は、みなに仕える者になりなさい。あなたがたの間でひとの先に立ちたいと思う者は、みなのもべになりなさい。人の子が来たのも、仕えられるためではなく、かえって仕えるためであり、また、多くの人のための、贖いの代価として、自分のいのちを与えるためなのです。 マルコ 10：43-45

眩い光と温かな風、南欧の雰囲気さえ漂うスイス・テシン州のアスコナ、その湖畔に建つカサ・モシアで、いつか一度修養会をと願っていた憧れの地で、愛するミラノの兄弟姉妹との合同修養会が持たれることになるうとは、。神のなさることは、すべて時になんて美しい。(伝道の書3：11)

ちいさな証

出会いという贈り物
今村葉子

スイス日本語福音キリスト教会会員



先日、行なわれたスイス、ミラノ合同修養会の期間中、沢山の事を思いました。

私がこの修養会で頂いた事をキーワードで表すなら「出会い」です。神様、イエス様との出会い。そしてミラノ賛美教会の皆さんとの出会い。

「出会い」は本当に神様が用意して下さっている、とても不思議でスリリングですばらしいプレゼントだと思います。今回の修養会では講師として、ハワイの中野雄一郎先生とミラノの内村伸之先生をお招き致しましたが、師と慕う人と巡り会い、語り合える事程、素晴らしい出会いはないと思われました。

お二人は先生と生徒の間柄。でも私から見れば理想のお父さんと息子のように見えました。お二人ともお互いに仕え合い、労り合い、尊敬し合っておられました。親子でも、兄弟姉妹でも、師弟でも、社長と部下でも、すべての人間関係がこのように存在するのなら、そこは本当に「天国だな〜。」と思います。神様が私達に願っておられる事は遠い未来に実現するものではなく、最も近い所で実現して行く人間関係なのだろう。

がんばってできるものでも、我慢してできるものでもないけれど、すぐあきらめモードになりがちな私ですが、中野先生の「魚だったら、鱒を選びましょうよ！」の声を受けて、私は「この地上でも私達のゴールである天の御国を慕いつつ、主にある家族を建て上げて行く一歩を踏み出します。」と中野先生のパワーに背中を押され、思わず、そう神様に言ってしまいました！「～だったら（鱒）」とか、「～したい（鯛）」じゃなく「～します（鱒）」私は鱒より鯛や鱈が好物ですが、神様が共におられるのですから、鱒を選びますよ！



中野先生ご夫妻様、内村先生ご夫妻様、ミラノ賛美教会の皆様、そして、今回も陰で沢山助けてくれた、スイス日本語福音キリスト教会のお助けシスター、ブラザーの皆様、ありがとうございました！！

そして、なによりもいつも私達の心の想いを理解して、最善を成して下さる神様に心から感謝を捧げます。





1、6月7日から9日まで、スイスJEG/ミラノ賛美教会合同修養会が52名の参加者を得て、スイス・イタリア語圏テシン州アスコナにあるVBG(学生聖書連盟)直営ホテルCasa Mosciaで開かれました。ミラノ賛美教会の内村伸之牧師ならびに中野雄一郎牧師(マウント・オリーブミニストリーズ代表/日本、ハワイ)を迎え、祝福された交わりと学びのときを持ちました。メンバーが全世代に渡るスイス教会と異なり、ミラノで活躍する若い社会人と学生が主メンバーのミラノ賛美教会との合同修養会はお互いに良き刺激となり、予想以上の成果を上げた様に思えます。ヘス明美姉のショートレポートです。

ミラノ賛美教会との合同修養会が、アスコナで開催されました。ハワイから来て下さった中野先生による二度の講演会があり、先生のパワフルな説教と、ご夫妻のアクティブな生き方から教えていただいた事は、どんな時にも神様を第一とし、内なる聖霊様に聞き従う生活と隣人を愛する心です。

スイス教会・ミラノ教会の兄弟姉妹と一緒にいった観光もとても楽しく、ホテルでの交わりやスモールグループも大変素晴らしかったです。日曜礼拝では、内村先生より、御言葉を分かりやすく、力強く語っていただきました。これから私達に必要な事は、神様と正しい関係を持ち、また人の心を変える力を持つイエスキリストを目標とすること。チームワーク・ネットワーク・フットワークを大切に、力を合わせて福音を伝えていく事です。主にあって、恵み豊かな時間を持たせていただき、とても感謝しています。

2、修養会における中野雄一郎牧師の講演「クリスチャンの内からの絶大な力」及び「クリスチャンの聖霊の満たしと祝福」、主日礼拝の内村伸之牧師の説教「神の視点で共同体を見る」はスイスJEGのメッセージ専用サイトでお聴き頂けます。

<http://jeg.meielisalp.ch> また、修養会のショートビデオはスイスJEGのHP <http://www.jegschweiz.com/礼拝説教-audio-video/> でご覧頂けます。

3、6月23日の主日礼拝ではマイヤー・マルティン牧師をドイツからお迎えし、エペソ人への手紙シリーズの第3弾「神の教会とその新しい命」をテーマにエペソ2:1-10から解き明かして頂きました。イエス様によって蘇生されたナインのやもめの一人息子のように、罪過の上に死んでいた私たちを、主イエス・キリストは救い、生けるものとして下さったことに深い感動と感謝をもってメッセージを受け取りました。

4、6月23日、シンガポールJCFでは松本章宏牧師の就任式が行われました。その松本牧師からスイスJEGニュースレター5月号を受け取られた2人の姉妹から思いがけずお返事をいただきました。主は地球規模で神の家族のネットワークを編まれていることを知り感謝しました。許可を得てお二人のお便りを転載させていただきます。

ドバイJCFの門脇恵子姉から

スイス教会のニュースレターを送って下さりありがとうございました。開いてみて、驚きました。なんと、証しを書いていたしやるマルティン祐子さんは知り合いです。日本の所属教会南山教会の大島先生のご長女ではありませんか！

ロゴス号に2年間乗ってそのあと結婚してスイスに行かれたとは聞いていましたが、まさか、まさか。でも考えてみれば日本人クリスチャンが海外で日本語教会に行くのは、自然のなりゆきですね。それに気が付いていなかったわが身の不明を恥じるべきでしょうか。とにかく懐かしかったです。昨年、先生が訪問された時には会われたのでしょうか？

そして、今度は日本の金沢に派遣されるとか、ご両親が喜ばれる事でしょう。

東京都町田市 松見ヶ丘教会の大鶴英里子姉から

スイス日本語教会のニュースレター5月号を読ませていただきました。松本先生の報告と一緒に松見ヶ丘教会のクンツ宣教師の報告が載っていたので驚きました。4月から就任の中村守牧師ご夫妻の写真も載っています。

クンツ先生が無牧の一年間、教会と私たちを支えてくださいました。スイス教会とSJC Fと松見ヶ丘教会と一緒にニュースレターに掲載されていることは、嬉しく励まされました。

シンガポールの日本人に、福音が届きます様に、SJC Fが豊かに用いられます様にお祈りしております。「ニュースレター」の編集を担っていらっしゃるのが、昨年夏のクリスト者の集いで一緒した松林兄とわかり、スイス教会がさらに近い教会になりました。お祈りのお交わりがこれからも出来ることを楽しみにしています。

我が家は二人で、オランダでお会いしたままの状態、にぎやかにくらしています。来年のベルギーの集いには参加したいねと話合っているところです。

プリスキラ・クンツ先生の休暇もあと半月ですが、礼拝でお会いしたら、よろしくお伝えください。

5、第30回ヨーロッパ・クリスト者の集いの第3信がこの度発行されました。ホームページからご覧頂けます。<http://europetsudoj.jimdo.com> 膨大な準備作業にご奉仕下さるパリ教会の姉妹の健康が守られ、主の導きがありますようお祈りします。

6、オーニングー宣教師、クンツ・プリシキラ宣教師、ラシェンコ・ペラ宣教師からのRundbrief、工藤篤子メルマガ195号、吉村美穂ニュースレター75号、井野葉由美メルマガ98号、バルセロナ日本語で聖書を読む会月報、デュッセルドルフ日本語教会月報、ケルボン教会月報、ルーマニア川井牧師の週報、アジア宣教フォーラム、イザール通信、夜越山祈りの家の月報が届いています。お読みにになりたい方は、松林までご一報下さい。



6月23日 愛餐会スナップ

スイス／ミラノ合同修養会

ミラノの声

神様のビジョン を見せられました。

名淵幸絵

隣の国、スイスで生活されている日本人のクリスチャンの方々と知り合うことができ、生活環境の違いも知りました。



ミラノに住む私たちは、比較的にみんな教会に近く、通いやすい場所で生活しており、平日

夜にも教会に集い、礼拝を捧げています。一方、スイスの方々は生活圏がさまざまな様子で遠方から教会に通われている方も多く、なかなか普段はクリスチャン同士が集まったり、分ち合いなどする機会が少ないことを聞きました。そんな中で、今回の修養会のために祈り、準備して下さったスイスのみなさまに心から感謝します。

家族で参加されている方が多く、子ども達が沢山いたことが、何より



印象的でした。子ども達が主の愛によって成長し、信仰が継承されていくという神様のビジョンも見せられました。スイスにいる主にある家族のみなさまのために、神様のビジョンも共有し、共に祈っていきましょう。

ミラノに置かれている私たちがすべきことも、具体的に示されて行くように祈ります。

チームワーク・ネットワーク・フットワーク

朴有里

今回の修養会では、スイスの方々に多くの準備をして頂き、湖畔の美しい場所で、快適に素晴らしい時を過ごさせて頂いたことを心より感謝しています。ありがとうございました。

隣接した2つの国が国境を越えた交わりを通して、グローバルでありながら、きめ細やかな神さまのご計画の一端を見れた思いでしたし、チームワーク・ネットワーク・フットワークというキーワードを大切に受け止め、福音が宣べ伝えられてゆく働きを共に担ってゆく家族がこんなたくさんいるのだ、と思うと感謝が込み上げてきました。



スイス人の伴侶をもつご夫妻の方々、ご家族で集う姿、たくさんの子供たちに触れて、ミラノの群れも大きな励ましを受けました。離れていても自分のためにとりなしの祈りを捧げてくれていた姉妹の笑顔に、主にある家族の素晴らしさを改めて教えられました。



今年20周年を迎えられるスイス教会の上に神さまの豊かな祝福があるよう、お祈りしています。

P.S.スイカ割り、楽しかったー！

神様から 与えられた使命

遠藤まこ

ハレルヤ！

私の生きている世界で神様の栄光が現せますように。主に、栄光あれ。

私の生きるこの世で、恐れる事なく、主だけを恐れ、生きようと思えました。この日を与えてくださった主と、皆様に感謝します。ありがとうございました。



隣の国の教会

鶴田朋之

今回の合同修養会で、スイスの教会のことを少しでも見る事ができ、祈りの課題を共有できたことが嬉しかったです。

隣の国の教会のことなのに、何も知らなかった自分を恥ずかしく思い、同時に同じ家族としての自覚を持つことができました。



主からの恵み

坂下萌



スイス、ミラノの二つの教会がともに集まって交わりを持つ機会をくだ

さった神様に感謝します。みなさんとの交わり、賛美、礼拝を通して、主からたくさんの恵みを受けました。メッセージを語ってくださった先生方、奉仕を担ってくださった方々にも感謝です。ありがとうございました。

あたたかい聖霊の風

渥美充代

隣り合う二つの国の兄姉が主によって集められ、みことば、主への賛美、祈りの課題を共有する時を与えられたことを心から神様に感謝しました。



冬が長いヨーロッパにハワイから

のあたたかい聖霊の風とイエス様へのパッションが中野先生ご夫妻を通して運ばれ、大変大きな励ましを受けました。

私たちが違いを超えて、知恵を出し合い、イエス様がつなげてくださるチームの一員とし、ともに仕えていくことができるように、神様が今まで見せてくだ

さったことを受けとめ、そしてこれからなさることに期待し、神の家族として祈りあっていきたいと思ひます。

今回たくさんの準備やご奉仕をしてくださったスイスの教会のみなさまに心より感謝いたします！

二組の家族と一緒に

内村まり子

湖のほとりにて美しく咲く花々、静かな憩いの主の牧場に招かれました。



美味しいお食事、そして霊の糧、賛美溢れる修養会に集えたことを感謝します！

スイス日本語教会&ミラノ賛美教会の皆さんと一緒に集っていることが、まるで二組の家族と一緒にいるように、自然に感じられた修養会でした。

ハワイから来て下さった中野先生ご夫妻に感謝します。そして表となり裏となり、オーガナイズ・奉仕して下さいました兄弟姉妹に、そして一緒にいて下さった兄弟姉妹に心から感謝します。



私の内に住んでおられる聖霊の声に耳を澄ませて、主と会話することを心に刻み、色々な角度から「家族」

について語られ考えさせられる時となりました。主にあってポジティブに歩みます！宣教の主が私達に与えて下さっているご計画に耳を澄ませて期待しつつ。

神様の一方的な恵み

森本真理子

約一年前にスイスの方にスイスのイタリア語圏での合同修養会のことを伺ってから、とても楽しみにしていました。

今住んでいる家がスイスとミラノの中間に位置していることもあり、



スイスイタリア語圏がまだ未開拓であることや、スイスの方々がイタリアにいる我々に開拓して欲しいと思われることを先生から伺い、御心であれば自分の家や家族が用いられるよう祈りに覚えてきました。

今回参加する中で、この修養会を通して、たくさんの家族と出会い、神様がミラノにも今後家族を増やされようとしていること、それに備えよと言われていることを強く感じました。

また、礼拝に行くのも難しい距離に住んでいらっしゃるスイスの方々の心の渴きを知り、ミラノの我々が当たり前のようにミラノで母国語で礼拝や集会に出ることのできる環境が当たり前ではなく、神様の一方的な恵みであること、その我々に与えられた使命(伝えていくこと)があることを示され、身が引き締まる思いがしました。

まだ私たちは神様のビジョンのほんの一部しかみていませんが、スイスの方々に覚えて祈っています。



土曜日のレクリエーション・スナック

祈りと交わりの醍醐味

(MIP-祈りのお母さん)

本園万子 (かずこ)

スイス日本語福音キリスト教会会員

私は、トムセン千香子姉と二人で、毎週金曜日、MIP(Mother in Prayer)の祈り会をしています。午前8時から9時までの1時間を、賛美、告白、感謝、とりなしの4パートに分け、み言葉を引用しながら、CSの子供たちやお母さんたち、そして、私たちの子供たちが通っている学校のために祈りを捧げています。基本的には、祈りの中で課題提示をし、お互い必要に応じて祈りに応答していきます。時間を忘れ、ノンストップで祈り続ける聖なる時です。ティータイムは持たないことになっています。それは、お互いの負担を少なくし、毎週コンスタントに続けていくための配慮だからです。

ここで、日本語MIPが2012年8月に開始となった経緯を御紹介いたします。2006年夏のヨーロッパ・キリスト者の集いで、ドイツのナイチェル先生のご指導により、世界中に広がっているMIPの存在を知りました。私は、さっそく、日本人のグループが出来ればと祈り始めました。同年9月には、スイス人のグループに参加させていただき、私が健康を損ない始めた2011年末まで続けました。様々な理由により、最後は一人になり、今後のことを地区リーダーと共に祈っていた頃、時を同じくして、千香子姉もMIPのグループを探しておられたのがきっかけでした。主に感謝。

私が試練の只中にいたとき、神様はMIPを通して、時折助けの手を差し伸べて下さいました。彼女らの強い信仰には、本当に励

まされ続けています。ケガや病気で外出できなかったときも、彼女らと共に泣き、分かち合い、祈り合ってきました。それは、MIPのお母さんたちが、次のような態度で私に接して下さいたからだと思います。

癒しへの近道を歩むには

他人の行動をあれこれ解釈しないこと

裁きの思いを全て手放すこと

何かを、又は、誰かをコントロールしようとしないこと

他人を悪者にして、正義を振りかざさないこと

期待を手放し、他人はこうあるべきだと思わないこと

他人や自分の中に、過去の影を探すのをやめること

自分と同じくらい他人にも関心を寄せること

心の安らぎを選び、神の安らぎだけを求めること

心の中に聖霊の炎を燃やし、聖なる愛に身を委ねること

争いではなく、平和を選ぶこと

競争ではなく、協力を選ぶこと

ジャン・ポールスキーの「癒しのレッスン」より

たまたま出会ったクリスチャン精神科医の言葉ですが、この中にはイエス様からのメッセージがたくさん盛り込まれています。皆様もどうぞ、祈りと交わりの醍醐味を味わってみて下さい。千香子姉と二人で、日本語MIPがスイス、そして世界各地に広がり、全ての日本人の子供たちが漏れなく祈られる日が来るようお祈りしています。



連絡先: 本園 kazuko.enzler@swissonline.ch

トムセン千香子姉 chikakothomsen@hotmail.com

尚、11月9日(土) 9:00-16:00、ウィンタートゥールにてスイスMIP20周年記念集會が行なわれます。進行はドイツ語、仏伊英で字幕が付きます。必要ならば、私が通訳しますので、興味がおありの方は、是非ご参加ください。

主なる神よ、私たちがどんな人間であるか知っておられます。

私たちが良い良心を持った人間であり、

また、そうでない良心を持った人間であること、

心が満ち足りており、

また、満ち足りておらぬ人間であること、

頼むに足る人間であり、

また、不確かな人間であること、

確信を持ったキリスト者であり、

また、習慣的なキリスト者であること、

信じる者であり、

また、適当な信仰しか持たぬものであり、

不信仰な者である事を知っておられます。

主よ、あなたは、私たちがどこから来た者であるか

知っておられます。

私たちが、近親者、知人、友人の範囲から、

または、甚だしい孤独の内からやって

来た者である事、

落ち着いた豊かさの内から、

または、様々な困惑、困窮、苦しみの内からやって来た者であること、

何不足ない家族関係から、

または、緊張し破壊された家族関係の内からやって来た者であること、

キリスト教会の中から、

または、キリスト教会の外からやって来た者であることを、

カール・バルトの祈り



主よ、あなたは知っておられます。

けれど今、私たちは皆、このように全く違っておりながら、

全く同じ者として、あなたの御前に立っています。

すなわち、私たちは皆、あなたの御前に、

また、互いの間においても、不義の内にある罪を

犯した者であると言う点、

私たちは皆、一度は死ななければ

ならないと言う点、

そして、主よ、私たちは皆、あなたの恵みがな

ければ、失われた者であると言う点において、

同じ者としてあなたの御前に立っています。

あなたの恵みが、今日、あなたの愛する御子、

主イエス・キリストにおいて、

私たち全てに約束され、差し出されている

という点においても、

同じ者として私たちは、あなたの御前に

立っています。

私たちは、あなたが私たちに語り給うのを、

待ち望むという生き方で、

あなたを賛美するために、ここに集っています。

どうか、この事が、今この時間において起こりますように、

あなたの御子、私たちの主の御名によって、お祈り申し上げます。

アーメン。